

伊 保 遺 跡

調査の概要

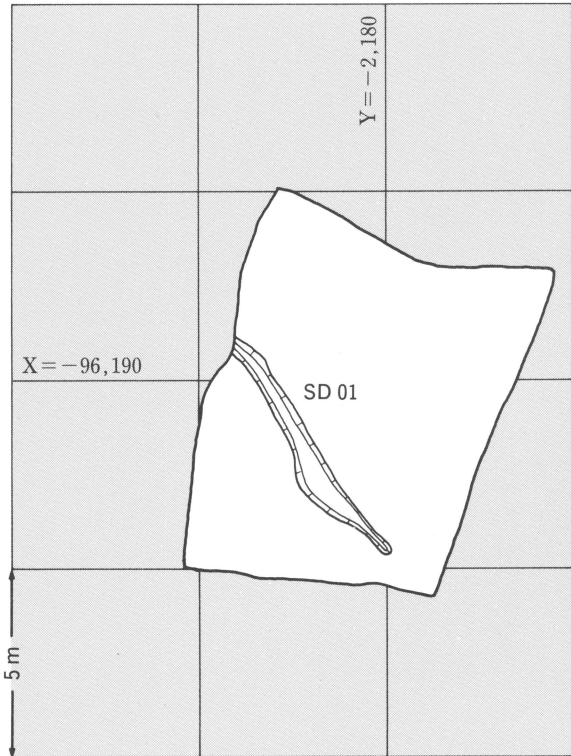
伊保遺跡は豊田市保見町、東保見町に所在する。猿投山から南方にのびる舌状を呈する洪積台地の南端に東西に細長く立地する。昭和44年に猿投遺跡調査会により本遺跡の発掘調査が初めて行われ、弥生時代後期～古墳時代、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出された。今回の当センターによる発掘調査は、県道加納・東保見線建設に伴う事前調査であり、平成2年度より継続して実施してきた。昨年度までの調査においては、先土器～鎌倉時代の遺構・遺物が確認されている。

今年度は1調査区のみ調査を行った。面積は500㎡である。厚さ2～3mの現代の攪乱層の下に河川成の粗粒～中粒砂が堆積している。その砂層を掘り込んで、北西から南東方向に中粒砂で埋積された幅約50cm、深さ約20cmの灰釉系陶器を含む溝を1条検出した。

(鬼頭 剛)



調査区位置図 (1:10000)



遺構図 (1:200)